



# PRIGS

(PDF Raster Image Generate System)

- Version 2.1 -

## 取扱説明書

(管理者向けシステム導入編)



## < 目次 >

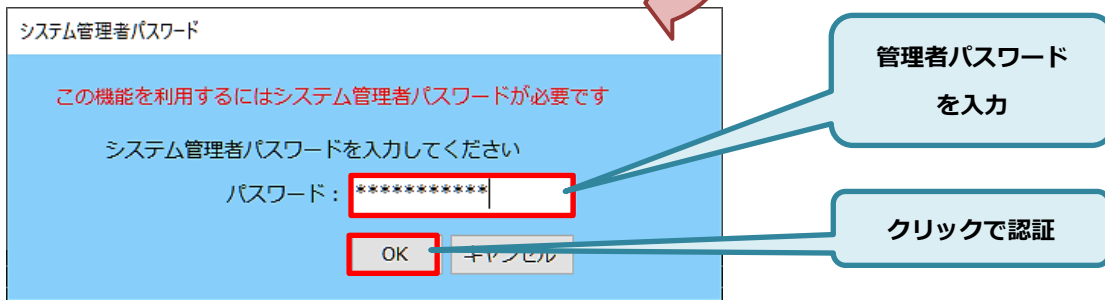
1. システム動作設定.....	1
2. 動作状態変更 .....	10
3. レジストリ仕様 .....	13
4. ホットフォルダ連携仕様 .....	18

## 1. システム動作設定

PRIGS のシステム動作全般の設定を行います。この機能进行操作するには「管理者パスワード」の認証が必要です。



以下のパスワード認証画面が表示されます。



管理者パスワードの初期値は **prigs\_admin** となります。この管理者パスワード認証は PRIGS 起動後に 1 回のみ実施されます。管理者パスワードが必要な何れかの機能操作で認証済みであれば 2 回目以降の操作ではパスワード入力不要です。

※管理者パスワードの変更は次に表示される「システム動作設定」画面で変更が可能ですが、最初にこの画面を開く場合にはパスワードの初期値を入力する必要がありますのでご注意ください。初期値パスワードをお忘れの場合にはサポート担当者までご連絡ください。

パスワード認証後に以下の画面が表示されます。

システム動作設定

**システム装置情報設定(M)**

**システム連携**

動作モード **ONLINE** PDF比較動作 ▼

連携方式 **外部装置通信** ページ分割数 頁

---

**レンダリング性能**

画像受信PCとの接続セッション数	6	セッション
各レンダラの並列動作ページ数	6	ページ
RIP並列動作スレッド数[ローカルレンダラ]	6	スレッド
RIP並列動作スレッド数[リモートレンダラ]	6	スレッド
レンダリング性能目標値	100	m/分

---

**コントローラ・画像受信機間フロー制御**

画像データ応答受信TimeOut時間	60	秒
受信機バッファFULL検出時の再送間隔	500	ミリ秒
受信機停止中によるWAIT検出時の再送間隔	30000	ミリ秒

---

**画像受信機とのレンダリング動作**

受信機バッファFULL検出時のRIP停止	しない	▼
受信機停止中によるWAIT検出時のRIP停止	しない	▼
画像排出手スレッドの協調動作	しない	▼
性能目標を超えた場合の自己調整	しない	▼

---

**コントローラ・リモートレンダラ間の通信時DISK排出制御**

DISK排出上限値(スレッド単位数)	1	件まで
DISK排出手超過検出時のデータ再送間隔	1000	ミリ秒
DISK-FULL状態検出時のデータ再送間隔	10000	ミリ秒

---

**画像受信装置とのコマンド通信タイムアウト値**

	ホストPC	画像受信PC
品種一覧取得(KINDLIST)	60 秒	(なし)
ジョブ情報送信(JOBINFO)	60 秒	60 秒
RIP開始(RIPSTART)	60 秒	60 秒
RIP終了(RIPEND)	60 秒	60 秒

**メモリ使用量**

コントローラの使用可能メモリ量	1188	Mバイト
スレッド単位の使用容量	66	Mバイト
<hr/>		
レンダラの使用可能メモリ量	1500	Mバイト
スレッド単位の使用容量	250	Mバイト

---

**ローカルレンダラでのRIP動作時のDISK排出制御**

DISK排出上限値(スレッド単位数)	1	件まで
DISK排出手超過検出時の再処理間隔	1000	ミリ秒
DISK-FULL状態検出時の再処理間隔	10000	ミリ秒

---

**リモートレンダラでのRIP動作時のDISK排出制御**

DISK排出上限値(スレッド単位数)	1	件まで
DISK排出手超過検出時の再処理間隔	1000	ミリ秒
DISK-FULL状態検出時の再処理間隔	10000	ミリ秒

---

**画像受信機へのデータ転送開始条件**

複合条件  RIP開始からの経過時間 秒

送信キューへの格納件数 件

---

**システム連携機器への特殊指示**

終了ボタンで常時RIPENDコマンドを送信する(V1.0互換)

複数選択されたPDFファイルの先頭PDFにMARK属性を設定

---

**※RIP動作検証用の画像ファイル出力**

出力 しない ファイル形式 TIFF

フォルダ 参照

---

**ログ出力**

画像受信PC通信ログ する RIPリスト する

---

**セキュリティ**

システム管理者パスワード \*\*\*\*\*  表示

保存(S)

キャンセル

CFGファイル読み込み(R)

設定内容をCFGファイルで保存(A)

## 1. 1 基本操作

以下に画面の基本操作を示します。

<b>システム装置情報設定(M)</b>	「1. 3 システム装置情報設定」画面へ遷移します
<b>保存(S)</b>	設定内容をシステム設定ファイルに保存して画面を閉じます
<b>キャンセル</b>	変更内容を破棄して画面を閉じます
<b>CFG ファイル読み込み(R)</b>	保存されている「システム設定ファイル」を読み込んで設定値をロードします
<b>設定内容をCFGファイルで保存(A)</b>	設定されている内容を別名の「システム設定ファイル」で保存します

※「システム設定ファイルは」PRIGS ルートフォルダの直下にある「TgiPdfInspectRipLib.cfg」です。

PRIGS ルートフォルダについては「3. レジストリ仕様」をご覧ください。

## 1. 2 設定内容

以下にグループごとの設定内容詳細を示します。

システム連携	
動作モード	「ONLINE」・「OFFLINE」が表示されます この設定は「システム装置情報設定」画面で変更できます
連携方式	「外部装置通信」・「ローカル接続」が表示されます この設定は「システム装置情報設定」画面で変更できます
PDF 比較動作	動作モードが「OFFLINE」の場合に選択できます <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「しない」 = Tiff 出力のオフライン動作になります</li> <li>● 「する」 = 2つのPDFを比較する比較検査動作になります</li> </ul> この場合、オプション機能の「Tiff 画像比較検査ソフト」のインストールが必要です
ページ分割数	PDF 比較動作が「する」に設定された場合に入力できます Tiff 画像比較動作を行う一括ページ数を設定します
レンダリング性能	
画像受信 PC との接続セッション数	画像受信機と RIP 画像を伝送するセッション数を設定します この数は目標性能をクリアする出来るだけ少ない値で設定してください
各レンダラの並列動作ページ数	コントローラ、レンダラで動作するレンダリングタスクが一括で並列 RIP 処理を行うページ数を設定します。 <b>この値は[画像受信 PC との接続セッション数]の倍数値で設定します</b>
RIP 並列動作スレッド数[ローカルレンダラ]	コントローラ装置上で動作するレンダリングタスクが並列動作を行うスレッド数を設定します。 <b>この値は[画像受信 PC との接続セッション数]の倍数値で設定します</b>
RIP 並列動作スレッド数[リモートレンダラ]	レンダラ装置上で動作するレンダリングタスクが並列動作を行うスレッド数を設定します。 <b>この値は[画像受信 PC との接続セッション数]の倍数値で設定します</b>
レンダリング性能目標値	性能目標とする速度を m/分で設定します。 <b>この値は現在の性能値がどれくらいであるかの速度表示用として使用されるもので、実際の性能値を制御する値ではありません。実際には画像受信機の応答パフォーマンスなどにより性能値は逐次変化します</b>
コントローラ・画像受信機間フロー制御	
画像データ応答受信 TimeOut 時間	画像受信 PC への「画像ヘッダ情報」送信時の応答待ち時間を設定します ※「画像データ」送信時の応答受信の場合はタイムアウトせず無限に待ちます
受信機バッファ FULL 検出時の再送間隔	画像受信 PC が「画像ヘッダ情報」の受信応答時に“FULL”を返した場合に再送を行うまでの待機時間を設定します
受信機停止中による WAIT 検出時の再送間隔	画像受信 PC が「画像ヘッダ情報」の受信応答時に“WAIT”を返した場合に再送を行うまでの待機時間を設定します

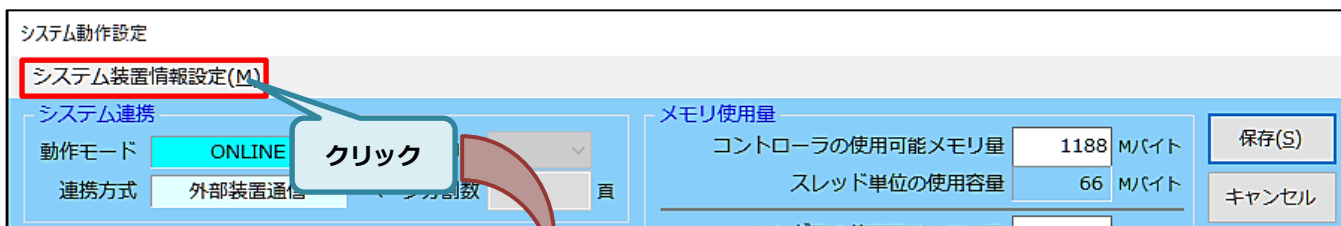
画像受信機とのレンダリング動作	
受信機バッファ FULL 検出時の RIP 停止	画像受信 PC が「画像ヘッダ情報」の受信応答時に“FULL”を返した場合に RIP 動作を停止するかの設定を行います
受信機停止中による WAIT 検出時の RIP 停止	画像受信 PC が「画像ヘッダ情報」の受信応答時に“WAIT”を返した場合に RIP 動作を停止するかの設定を行います
画像排出スレッドの協調動作	<p>画像受信 PC へのデータ送信時に、接続セッション間で画像データ排出タイミングの同期を行うかを設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「しない」 = セッション間での同期はとりません。各セッションで非同期に画像データを排出します。通信状態によっては遅延するセッションも発生します</li> <li>● 「する」 = 全てのセッションでの画像データ排出が 1 巡するまで次のページの排出は行いません。この設定を選択した場合はセッション間の同期が行われる分画像データ送信が一般的に多少遅延します。但し接続セッション分の全てのページは同じタイミングで画像受信 PC へ送信されます</li> </ul>
性能目標を超えた場合の自己調整	※現バージョンではこの設定は変更できません
コントローラ・リモートレンダラ間の通信時 DISK 排出制御	
DISK 排出上限値(スレッド単位数)	コントローラ装置とレンダリング装置間の通信において、受信した画像データをコントローラ装置の DISK へ排出する上限件数を設定します。この値は特に指定が無い限り[1]を設定してください。この設定値が大きいと DISK への書き出しが頻発して性能が低下します。この値は高いレンダリング性能を求めず、搭載メモリが少ない構成の場合などに調整します
DISK 排出値超過検出時のデータ再送間隔	コントローラ装置が「DISK 排出上限件数に達した」ことをレンダリング装置へ通知した場合にレンダリング装置が再送を行うまでの待機時間を設定します
DISK-FULL 状態検出時のデータ再送間隔	コントローラ装置が「DISK 容量がない」ことをレンダリング装置へ通知した場合にレンダリング装置が再送を行うまでの待機時間を設定します
画像受信装置とのコマンド通信タイムアウト値	
品種一覧取得(KINDLIST)	外部連携装置(ホスト PC)から「品種一覧」を受信するまでの待ち時間を設定します。 ※「品種一覧取得」はホスト PC に対してのみ要求されます
ジョブ情報送信(JOBINFO)	外部連携装置(ホスト PC・画像受信機)へ「ジョブ情報送信」を実行した後に送信先から応答を受信するまでの待ち時間をそれぞれ設定します
RIP 開始(RIPSTART)	外部連携装置(ホスト PC・画像受信機)へ「RIP 開始」を実行した後に送信先から応答を受信するまでの待ち時間をそれぞれ設定します
RIP 終了(RIPEND)	外部連携装置(ホスト PC・画像受信機)へ「RIP 終了」を実行した後に送信先から応答を受信するまでの待ち時間をそれぞれ設定します

メモリ使用量	
コントローラの使用可能メモリ量	PRIGS がコントローラ装置で使用できる物理メモリ量を MB 単位で設定します。 ※Windows 起動状態での使用可能メモリ量の値をそのまま設定をしないでください。この値は外部連携装置の画像受信タスクが同一装置で動作するなどにより調整が必要になる値です。コントローラ装置全般で使用されるメモリの概算を算出して使用可能な容量を設定してください
↳ スレッド単位の使用容量	コントローラ装置で使用できる物理メモリ量を動作するスレッド数で換算したスレッド単位のメモリ量が表示されます
レンダラの使用可能メモリ量	PRIGS がレンダラ装置で使用できる物理メモリ量を MB 単位で設定します。 ※レンダラ装置ではレンダリングタスクが複数動作します。この設定値は1つのタスクに対しての設定値になります。レンダラ装置の物理メモリの空き容量をレンダリングタスク数で除算して計算してください
↳ スレッド単位の使用容量	レンダラ装置で使用できる物理メモリ量を動作するスレッド数で換算したスレッド単位のメモリ量が表示されます
ローカルレンダラでの RIP 動作時の DISK 排出制御	
DISK 排出上限値(スレッド単位数)	コントローラ装置上で動作するレンダラタスクにおいて、RIP した画像データを DISK へ排出する上限件数を設定します。この値は特に指定が無い限り[1]を設定してください。この設定値が大きいと DISK への書き出しが頻発して性能が低下します。この値は高いレンダリング性能を求めず搭載メモリが少ない構成の場合などに調整します
DISK 排出値超過検出時の再処理間隔	レンダラタスクが「DISK 排出の上限件数に達した」ことを検出した場合に再処理を行うまでの待機時間を設定します
DISK-FULL 状態検出時の再処理間隔	レンダラタスクが「DISK 容量がない」ことを検出した場合に再処理を行うまでの待機時間を設定します
リモートレンダラでの RIP 動作時の DISK 排出制御	
DISK 排出上限値(スレッド単位数)	レンダラ装置上で動作するレンダラタスクにおいて、RIP した画像データを DISK へ排出する上限件数を設定します。この値は特に指定が無い限り[1]を設定してください。この設定値が大きいと DISK への書き出しが頻発して性能が低下します。この値は高いレンダリング性能を求めず搭載メモリが少ない構成の場合などに調整します
DISK 排出値超過検出時の再処理間隔	レンダラタスクが「DISK 排出の上限件数に達した」ことを検出した場合に再処理を行うまでの待機時間を設定します
DISK-FULL 状態検出時の再処理間隔	レンダラタスクが「DISK 容量がない」ことを検出した場合に再処理を行うまでの待機時間を設定します
画像受信機へのデータ転送開始条件	
RIP 開始からの経過時間	画像受信機へ画像データ排出を開始する条件を「RIP 開始からの経過時間」で設定します。この設定が行われた場合、条件を満たすまで画像データ排出を待機します
送信キューへの格納件数	画像受信機へ画像データ排出を開始する条件を「送信キューへの格納件数」で設定します。この設定が行われた場合、条件を満たすまで画像データ排出を待機します
複合条件	「RIP 開始からの経過時間」と「送信キューへの格納件数」が何れも設定された場合にこれらを AND 条件とするか OR 条件とするかの設定を行います

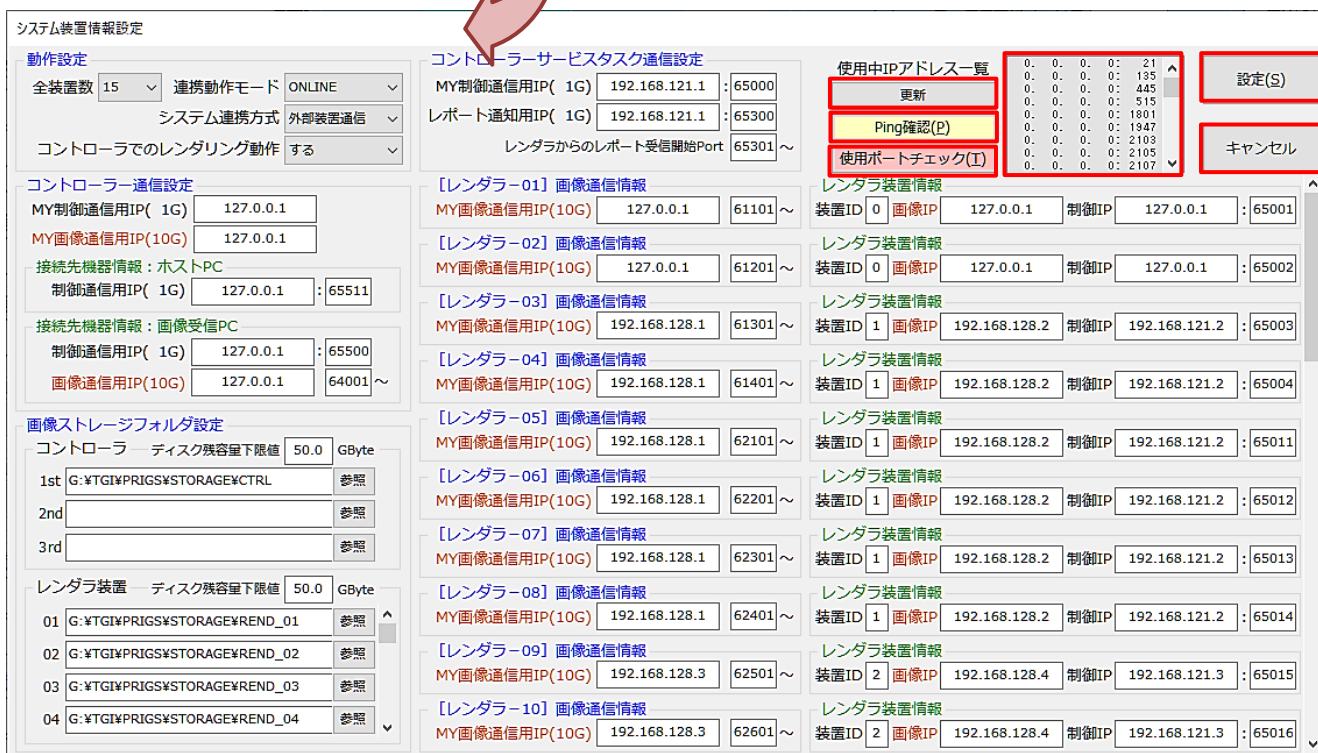
システム連携機器への特殊指示	
終了ボタンで常時 RIPEND コマンドを送信する(V1.0 互換)	<p>※「V1.0 互換」現在バージョンでは非推奨の設定です</p> <p>終了ボタンを常時有効としてクリックされれば RIPEND コマンドを外部連携装置(ホスト PC・画像受信機)へ送ります</p>
複数選択された PDF ファイルの先頭 PDF に MARK 属性を設定	<p>RIP のジョブ設定時に複数の PDF が選択された場合に先頭 PDF に MARK 属性を付けて「ジョブ情報送信(JOBINFO)」を行うかの設定です</p> <p>この用途は、この先頭 PDF の MARK を外部連携装置が認識して特別な処理（例えば裏ページの PDF として認識するなど）が必要な場合に設定します</p>
<p>※RIP 動作検証用の画像ファイル出力 <b>外部連携機器との検証用機能です。通常運用では設定しないでください</b></p>	
出力	画像ファイルを出力するかを設定します
ファイル形式	<p>画像ファイルの画像形式を設定します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「RAW」 = PRIGS の画像データ専用形式でファイル出力します</li> <li>●「TIFF」 = TIFF 形式でファイル出力します</li> </ul>
フォルダ	画像ファイルを出力するフォルダを選択します
ログ出力	
画像受信 PC 通信ログ	<p>画像受信装置との通信ログの出力有無を設定します</p> <p>通信ログは PRIGS ルートフォルダの配下にある「log」フォルダに出力されます。「log」フォルダ内は稼働した日付（YYYY-MM-DD）でフォルダが作成されます。そのフォルダ内の「TASK-0」フォルダ配下にある「THREAD_00」～のフォルダ内に作成される「InspectSendList.csv」が通信ログファイルです</p> <p>※PRIGS ルートフォルダおよび日付フォルダのガベージ周期設定については「3. レジストリ仕様」をご覧ください</p>
RIP リスト	<p>RIP 対象ページリストの出力有無を設定します</p> <p>RIP リストは PRIGS ルートフォルダの配下にある「log」フォルダに出力されます。「log」フォルダ内は稼働した日付（YYYY-MM-DD）でフォルダが作成されます。そのフォルダ内の「TASK-0」～フォルダ配下にある「JobInfoList_*.csv」が RIP リストファイルです</p>
セキュリティ	
システム管理者パスワード	<p>システム管理者パスワードを設定します</p> <p>初期値は <b>prigs_admin</b> です</p>
表示	チェック ON で入力されたパスワードを表示します

### 1.3 システム装置情報設定

この画面は「システム動作設定」のメニューから開くことができます。各装置の通信情報やディスクストレージ割り当ての設定を行います。 **※この操作はコントローラーアプリケーションのみ起動させて行ってください。**



以下の設定画面が表示されます。



#### (1) 基本操作

以下に画面の基本操作を示します。

<b>設定(S)</b>	設定内容を更新して画面を閉じます
<b>キャンセル</b>	変更内容を破棄して画面を閉じます
<b>更新</b>	「使用中ポート一覧」の表示を最新に更新します
<b>Ping 確認(P)</b>	設定されている IP アドレスに対して順次 Ping を発行して接続確認を行います
<b>使用ポートチェック(T)</b>	設定されているポート番号を使用中のアプリケーションがあるかをチェックします
<b>使用ポート一覧</b>	ポート番号競合チェック用として現在使用されているポート一覧が表示されます

## （２）設定内容

以下にグループごとの設定内容詳細を示します。

動作設定	
全装置数	<p>PRIGS 機器構成の装置台数を設定します。[1] ～ [33] が選択できます。</p> <p>コントローラ装置は1台でカウントします。<b>レンダラ装置は物理装置数ではなく RIP 処理タスク数を論理装置数としてカウント</b>します。</p> <p>コントローラ装置 = 1台、コントローラ装置上で動作する RIP 処理タスクを2個、レンダラ装置2台（RIP 処理タスクは6個）の場合、全装置数は[15]で設定します。</p> <p>各装置での RIP 処理タスクの最大登録は16個までです。また全ての装置での RIP 処理タスクの合計数は32個まで登録可能です。</p>
連携動作モード	<p>[ONLINE] または [OFFLIE] が選択できます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [ONLINE] = 外部連携装置と TCP/IP 通信でオンライン接続します</li> <li>● [OFFLIE] = 外部連携装置とは Tiff ファイルで連携します</li> </ul>
システム連携方式	<p>[外部装置通信] または [ローカル接続] が選択できます</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [外部装置通信] = 外部連携装置とは物理的に離れた装置として接続します</li> <li>● [ローカル接続] = 外部連携装置とは同一装置上で接続します</li> </ul> <p>※接続方式には何れも TCP/IP 通信を使用しますので上記選択肢に動作の差異はありません</p>
コントローラでのレンダリング動作	<ul style="list-style-type: none"> <li>● [する] = コントローラ装置上でも RIP 処理タスクが動作してレンダリングを行います → <b>コントローラ装置の負荷は上がりますが全般的な性能は向上します</b></li> <li>● [しない] = コントローラ装置では RIP 処理を行わずレンダリング装置でのみ行います → <b>コントローラ装置の負荷は軽減されます。性能に支障がなければこれを選択してください</b></li> </ul>
コントローラ通信設定	
MY 制御通信用 IP(1G)	<p>※外部連携装置の画像受信システムが同じ装置内で動作する場合はローカル IP になります コントローラ装置自身のコマンド制御用 IP アドレスを設定します</p>
MY 画像通信用 IP(10G)	<p>※外部連携装置の画像受信システムが同じ装置内で動作する場合はローカル IP になります コントローラ装置自身の画像データ通信用 IP アドレスを設定します</p>
接続先機器情報：ホスト PC ↳ 制御通信用 IP(1G)	<p>※外部連携装置の画像受信システムが同じ装置内で動作する場合はローカル IP になります 外部連携装置(ホスト PC)側のコマンド制御用 IP アドレス・ポート番号を設定します</p>
接続先機器情報：画像受信 PC ↳ 制御通信用 IP(1G) ↳ 画像通信用 IP(10G)	<p>※外部連携装置の画像受信システムが同じ装置内で動作する場合はローカル IP になります 外部連携装置(画像受信 PC)側のコマンド制御用 IP アドレス・ポート番号を設定します 外部連携装置(画像受信 PC)側の画像データ通信用 IP アドレス・開始ポート番号を設定します。<b>開始ポート番号は、この番号から設定された「接続セッション数」だけ待ち受けポート番号が使用されます。他のポート番号と衝突しない値を設定してください</b></p>
画像ストレージフォルダ設定	
コントローラ [ディスク残容量下限値]  ↳ 1st フォルダ ↳ 2nd フォルダ ↳ 3rd フォルダ	<p>設定されているスレッド数から計算されたストレージ DISK 容量の下限値が初期表示されます 下限値として設定する値を入力します。この値は 1st～3rd 全てのディスクにおいて共通の設定値となります</p> <p>1 番目に使用されるストレージのフォルダ名を設定します。<b>この設定は必須です</b></p> <p>2 番目に使用されるストレージのフォルダ名を設定します。この設定は任意です</p> <p>3 番目に使用されるストレージのフォルダ名を設定します。この設定は任意です</p>

<p><b>レンダラ装置 [ディスク残容量下限値]</b></p> <p>└ 01 フォルダ</p> <p>└ 02 フォルダ</p> <p>└ . . . . .</p> <p>└ 32 フォルダ</p>	<p>設定されているスレッド数から計算されたストレージ DISK 容量の下限値を表示・設定します この値は 1st~3rd 全てのディスクにおいて共通の設定値となります</p> <p>レンダラタスク-01 が有効な場合にストレージのフォルダ名を設定します</p> <p>レンダラタスク-02 が有効な場合にストレージのフォルダ名を設定します</p> <p>. . . . .</p> <p>レンダラタスク-32 が有効な場合にストレージのフォルダ名を設定します</p>
<p>コントローラサービスタスク通信設定</p>	
<p><b>MY 制御通信用 IP(1G)</b></p>	<p>コントローラ上で動作するサービスタスク自身のコマンド制御用 IP アドレス・ポート番号を設定します</p>
<p><b>レポート通知用 IP(1G)</b></p>	<p>コントローラ上で動作するサービスタスク自身のレポート通知用 IP アドレス・ポート番号を設定します</p>
<p><b>レンダラからのレポート受信開始 Port</b></p>	<p>サービスタスクが待ち受けるレンダラからのレポート情報の受信ポートの開始番号を設定します。<u>開始ポート番号は、この番号から設定された全装置数の「レンダラ登録数」だけ待ち受けポート番号が使用されます。他のポート番号と衝突しない値を設定してください</u></p>
<p><b>[レンダラ-01] 画像通信情報</b></p> <p>MY 画像通信用 IP(10G)</p> <p>開始ポート番号</p>	<p>サービスタスクの「レンダラ-01」用の画像データ通信用 IP アドレス・開始ポート番号を設定します。<u>開始ポート番号は、この番号から設定された「RIP 並列動作スレッド数」だけ待ち受けポート番号が使用されます。他のポート番号と衝突しない値を設定してください</u></p>
<p>└ <b>レンダラ装置情報</b></p> <p>装置 ID</p> <p>画像 IP ・ 制御 IP ・ 制御ポート番号</p>	<p>「レンダラ-01」と接続する装置 ID、画像データ通信用 IP アドレス・制御ポート番号を設定します。装置 ID は、<b>コントローラ装置上で動作するタスクの場合は 0、レンダリング装置上で動作するタスクの場合はレンダリング装置番号（1~4）</b>を設定します。</p>
<p><b>[レンダラ-02] 画像通信情報</b></p> <p>MY 画像通信用 IP(10G)</p> <p>開始ポート番号</p>	<p><b>[レンダラ-01] に同じ</b></p>
<p>└ <b>レンダラ装置情報</b></p> <p>装置 ID</p> <p>画像 IP ・ 制御 IP ・ 制御ポート番号</p>	<p><b>[レンダラ-01] に同じ</b></p>
<p>. . . . .</p>	<p>. . . . .</p>
<p><b>[レンダラ-32] 画像通信情報</b></p> <p>MY 画像通信用 IP(10G)</p> <p>開始ポート番号</p>	<p><b>[レンダラ-01] に同じ</b></p>
<p>└ <b>レンダラ装置情報</b></p> <p>装置 ID</p> <p>画像 IP ・ 制御 IP ・ 制御ポート番号</p>	<p><b>[レンダラ-01] に同じ</b></p>

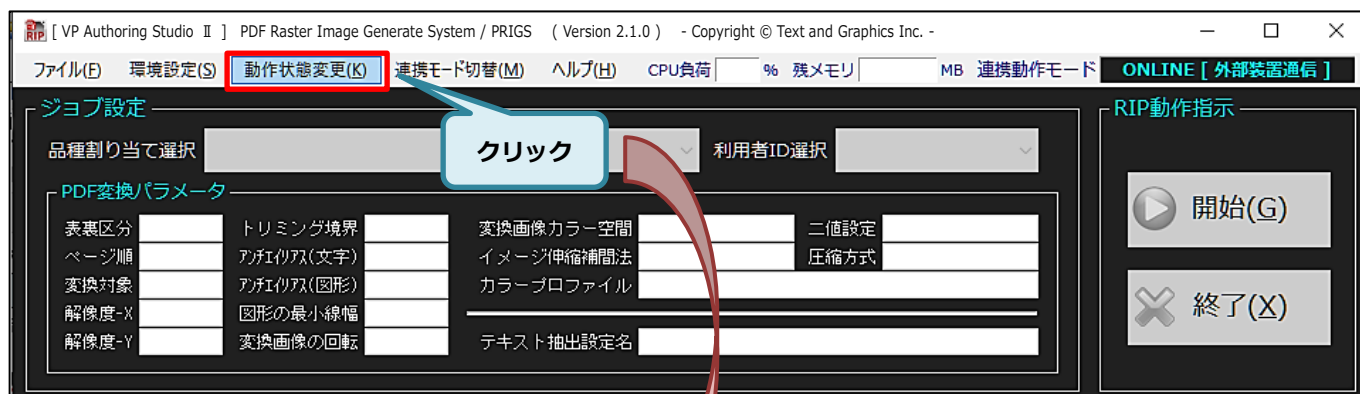
■ 「全装置数」「連携モード」の選択状態により入力領域の抑止制御がなされます。

■ ポート番号として指定できるのは「61000」から「65530」の範囲ですが、指定するポート番号が既に使用されていないかを「使用中ポート一覧」で確認して設定してください。

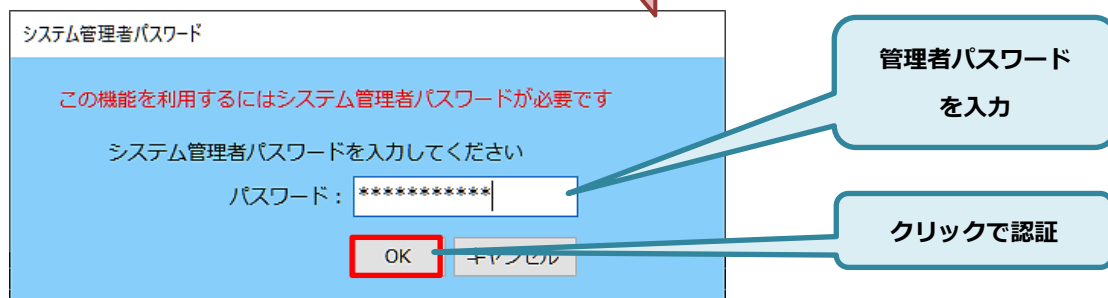
## 2. 動作状態変更

コントローラ装置のモニタ表示周期、レンダリングタスクの動作周期、およびシステム負荷時の自動調整などを設定します。

※この機能操作は通常運用では特に必要ありません。初期値のまま運用してください



以下のパスワード認証画面が表示されます。



管理者パスワードの初期値は **prigs\_admin** となります。この管理者パスワード認証は PRIGS 起動後に 1 回のみ実施されます。

管理者パスワードが必要な何れかの機能操作で認証済みであればパスワード入力は不要です。

※管理者パスワードの変更は「システム動作設定」画面で変更が可能です。

パスワード認証後に以下の画面が表示されます。

動作状態変更

コントローラ動作設定値

GUIへのモニタ情報通知間隔  ミリ秒

画像受信機へのデータ送信間隔  ミリ秒

適用(S) キャンセル

ローカルレンダラ動作設定値

レンダリング動作間隔  ミリ秒

画像バッファ監視周期  ミリ秒

リモートレンダラ動作設定値

レンダリング動作間隔  ミリ秒

画像バッファ監視周期  ミリ秒

※未入力の場合は指定なし、設定値[0]は最小タイムスライス

システム負荷の自動調整設定

(しない) ▼

加算(+)値  ミリ秒    減算(-)値  ミリ秒

加算上限値  ミリ秒    減算下限値  ミリ秒

加算(+)の減速OR条件    減算(-)の加速OR条件

CPU負荷  %以上    CPU負荷  %未満

残メモリ  MB未満    残メモリ  MB以上

## 2. 1 基本操作

以下に画面の基本操作を示します。

<b>適用(S)</b>	設定内容をシステム設定ファイルに保存して画面を閉じます
<b>キャンセル</b>	変更内容を破棄して画面を閉じます
<b>システム負荷の自動調整設定</b>	<p>システム動作時の負荷の自動調整方法を設定します。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">※この設定はシステム負荷が大きすぎて装置動作が不安定になる場合のみ設定してください</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● (しない) 設定しません</li> <li>● 「全てレンダラの動作間隔を自動調整」 コントローラ装置、レンダラ装置で動作する全てのレンダリングタスクの動作を自動調整します</li> <li>● 「ローカルレンダラの動作間隔を自動調整」 コントローラ装置で動作するレンダリングタスクのみの動作を自動調整します</li> <li>● 「リモートレンダラの動作間隔を自動調整」 レンダラ装置で動作するレンダリングタスクのみの動作を自動調整します</li> </ul> <p>※調整値の設定については後述します</p>

※「システム設定ファイルは」PRIGS ルートフォルダの直下にある「TgiPdfInspectRipLib.cfg」です。

PRIGS ルートフォルダについては「3. レジストリ仕様」をご覧ください。

## 2. 2 設定内容

以下にグループごとの設定内容詳細を示します。

コントローラ動作設定値	
GUI へのモニタ情報通知間隔	コントローラ用サービスタスクから GUI アプリケーションへ送信するモニタ情報の通知間隔を指定します。この値は 500 以上で設定するようにしてください
画像受信機へのデータ送信間隔	画像受信機へのデータ送信間隔にウエイト値を設定します。初期値は未設定です 高性能を求められない動作仕様であれば値を調整してシステム負荷を軽減できます
ローカルレンダラ動作設定値	
レンダリング動作間隔	コントローラ装置で動作するレンダリング動作の周期間隔です。初期値は 10 です 高性能を求められない動作仕様であれば値を調整してシステム負荷を軽減できます
画像バッファ監視周期	コントローラ装置で動作する画像データキューの監視周期間隔です。初期値は 10 です 高性能を求められない動作仕様であれば値を調整してシステム負荷を軽減できます
リモートレンダラ動作設定値	
レンダリング動作間隔	レンダリング装置で動作するレンダリング動作の周期間隔です。初期値は 10 です 高性能を求められない動作仕様であれば値を調整してシステム負荷を軽減できます
画像バッファ監視周期	レンダリング装置で動作する画像データキューの監視周期間隔です。初期値は 10 です 高性能を求められない動作仕様であれば値を調整してシステム負荷を軽減できます
システム負荷の自動調整設定	
加算(+)値	動作負荷を <b>下げる</b> ために <b>加算</b> するウエイト値を設定します
加算上限値	ウエイト値が <b>加算</b> された場合の <b>上限値</b> を設定します ※この設定値を <b>上回る</b> ウエイト値の <b>加算</b> は行いません
加算(+)の減速 OR 条件 CPU 負荷(%以上)	動作負荷を <b>下げる</b> ためにウエイト値を <b>加算</b> する CPU 負荷率の条件を設定します
↳残メモリ(MB 未満)	動作負荷を <b>下げる</b> ためにウエイト値を <b>加算</b> する残メモリ容量の条件を設定します <b>残メモリ容量の条件と CPU 負荷条件とは[OR]条件</b> になります
減算(-)値	動作負荷を <b>上げる</b> ために <b>減算</b> するウエイト値を設定します
減算下限値	ウエイト値が <b>減算</b> された場合の <b>下限値</b> を設定します ※この設定値を <b>下回る</b> ウエイト値の <b>減算</b> は行いません
減算(-)の加速 OR 条件 CPU 負荷(%未満)	動作負荷を <b>上げる</b> ためにウエイト値を <b>減算</b> する CPU 負荷率の条件を設定します
↳残メモリ(MB 以上)	動作負荷を <b>上げる</b> ためにウエイト値を <b>減算</b> する残メモリ容量の条件を設定します <b>残メモリ容量の条件と CPU 負荷条件とは[OR]条件</b> になります

■ これらの設定はシステム動作仕様の性能値に応じて調整してください。高性能を求められない仕様の場合には出来るだけシステム負荷を抑えた設定にしておくことを推奨します。

■ 「CPU 負荷率」「残メモリ」は目安の数値となります。

### 3. レジストリ仕様

本システムで参照されるレジストリ情報について説明します。

※レジストリ値を変更する場合はサポートセンターへお問い合わせをお願いします。また、レジストリ値を変更した場合は全てのプログラムの再起動が必要となります

レジストリルート：HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\TGI

KEY/項目	設定値（初期値）	説明
<b>PRIGS_Interface</b>		
InspectFolderList	folder.txt	<b>[OFFLINE] [PDF 比較モード]動作でのみ有効</b> 比較対象の PDF ファイルが格納されたフォルダ名を列挙したリストファイル名
InspectSplitBoundaryValue	50	<b>[OFFLINE] [PDF 比較モード]動作でのみ有効</b> 比較動作の一括処理数（単位：ページ数）
InspectTargetFileList	target.txt	<b>[OFFLINE] [PDF 比較モード]動作でのみ有効</b> 比較対象の PDF ファイルが格納されたリストファイル名
InspectTriggerFile	inspect.req	<b>[OFFLINE] [PDF 比較モード]動作でのみ有効</b> 「画像比較ソフト」に対しての比較動作開始の要求ファイル
InspectWaitingNextRip	OFF	<b>[OFFLINE] [PDF 比較モード]動作でのみ有効</b> 「画像比較ソフト」が動作中に次回分のページ RIP 動作を行うかの指定 [ ON=行う OFF=行わない ]
OfflineBeforeRipFilesLeave	OFF	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> RIP 開始時に所定の出力フォルダに存在する RIP 画像ファイルを全て削除するかの指定 [ ON=削除する OFF=削除しない ]
OfflineCreateFileNameFolder	OFF	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> RIP 動作時に所定の出力フォルダへ PDF ファイル名のサブフォルダを作成してそこに RIP 画像ファイルを格納するかの指定 [ ON=作成する OFF=作成しない ]
OfflineDirectTiffOut	OFF	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> RIP 動作時にメモリキューを使用せずにダイレクトに所定の出力フォルダへ RIP 画像ファイルを出力するかの指定 [ ON=ダイレクト出力する OFF=ダイレクト出力しない ]
OfflineFileNameFormat	{<NAME>}_{<LN>:D8}_ {<TS>:D1}- {<FN>:D4}_{<PN>:D8}. tiff	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> 出力される RIP 画像ファイル名の書式フォーマット ※置換される埋込みキーワード（":D8"等はゼロプレス桁数） <NAME> : PDF ファイル名（拡張子除く） <LN> : 論理番号（1 から始まるシーケンス番号） <TS> : 表=1 裏=2 <FN> : PDF ファイル番号 <PN> : PDF ページ番号

OfflineFolderBoundaryValue	0	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> 出力される RIP 画像ファイルをサブフォルダに分割して格納するかの指定 [ 0=分割しない 0 以外=分割単位数 ] ※指定された分割単位数が 100 の場合以下のような 8 桁固定のサブフォルダが作成されてここに RIP 画像ファイルを格納します 「00000001」 1~100 ファイルまで格納 「00000002」 101~200 ファイルまで格納
OfflineRipTestMode	OFF	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> RIP 画像ファイルを出力せずに <b>RIP 動作のみを行うテストモード</b> を有効にするかの指定を行います [ ON=有効 OFF=無効 ]
RipFileFolder	C:¥TGI¥PRIGS¥RipFiles	<b>[OFFLINE]動作でのみ有効</b> RIP 画像ファイルを出力するルートフォルダを指定します

KEY/項目	設定値（初期値）	説明
--------	----------	----

**VP Authoring Studio 2.0**

**PRIGS**

AdminBootServiceStart	OFF	GUI アプリケーションの起動時にサービスを自動的に開始状態にするかの設定 [ ON=開始する OFF=開始しない ]
AdminPasswordControl	ON	GUI アプリケーションの「管理者用パスワード」認証制御を行うかの設定 [ ON=制御を行う OFF=制御を行わない ]
AdminViewCompact	ON	GUI アプリケーションの画面サイズをコンパクトサイズで表示するかの設定 [ ON=する OFF=しない(Full HD) ]
AdminViewLocation	RIGHT	GUI アプリケーション起動時の画面位置指定 [ LEFT=左寄せ CENTER=中央 RIGHT=右寄せ ]
LogFileBackupMonths	60	「log」フォルダに格納される各種ログファイルの保存期間を月数で指定します。※指定された値が 60 の場合、ログフォルダ名 (YYYY-MM-DD)が現在日付から 60 ヶ月を超過したフォルダは削除されます
NetTrace	ON	通信制御のトレースログの出力を有効にします [ ON=出力する OFF=出力しない ] ※通信制御のエラーログは常に出力されます
RenderTrace	ON	レンダリング動作のトレースログの出力を有効にします [ ON=出力する OFF=出力しない ] ※レンダリング動作のエラーログは常に出力されます
RootPath	C:¥TGI¥PRIGS	PRIGS システムのルートパスを設定します
SetPdfSelectRootFolder	(未設定)	PDF ファイルの選択対象の初期ルートフォルダです ※未設定の場合は[RootPath]の設定値が適用されます
SetPdfSelectAutoListing	ON	<b>[SetPdfSelectRootFolder]¥[SetPdfSelectSubFolder]</b> で指定されているフォルダに存在する PDF を「品種選択」時に自動的にリストアップして表示するかを指定します [ ON=表示する OFF=表示しない ]

SetPdfSelectSubFolder	RipTargetFiles	PDF ファイルの選択対象の初期フォルダです ※実フォルダ名は [SetPdfSelectRootFolder]¥[SetPdfSelectSubFolder]
UserPasswordControl	OFF	GUI アプリケーションの「利用者パスワード」認証制御を行うかの設定 [ ON = 制御を行う OFF = 制御を行わない ]
<b>HotFolder</b> ※このグループで設定される値はプリンタとの連携仕様に合わせて調整が必要になります		
BootWatchStart	OFF	GUI アプリケーションの起動時にホットフォルダ動作を自動的に開始状態にするかの設定 [ ON = 開始する OFF = 開始しない ]
FileNameInKindLengthOrSeparator	-	ファイル名から品種名を抽出する場合の区切り文字セパレータ文字、または品種名の文字長さを数値指定します
FileNameInKindPos	12	ファイル名から品種名を抽出する場合の文字インデックス位置 (0 開始)を指定します
FileNameInKindPosOrigin	Last	ファイル名から品種名を抽出する場合の基点を指定します [ First = ファイル名先頭 Last = ファイル名末尾 ]
FindPdfMoveOrCopy	Move	共有フォルダに格納された対象 PDF ファイルの処理フォルダへの格納方法を指定します [ Move = 移動 Copy = 複写 ]
MovePdfSubFolder	_HotFolder	共有フォルダに格納された対象 PDF ファイルが格納される処理フォルダを指定します ※ <b>実フォルダ名は [RootPath]¥PDF¥[MovePdfSubFolder]になります</b>
OKNoticeMultiCondi	OR	プリンタへ OK 応答を返す条件の複合式を指定します <b>OR</b> : OKNoticeCondiPageNoRipCount、 OKNoticeCondiProgressSec の <u>何れかの条件が成立すれば</u> OK 応答を返します <b>AND</b> : OKNoticeCondiPageNoRipCount、 OKNoticeCondiProgressSec の <u>双方の条件が成立すれば</u> OK 応答を返します
OKNoticeCondiPageNoRipCount	100	<b>プリンタへ OK 応答を返す条件</b> <b>[RIP された論理ページ数] :</b> RIP された論理ページ数がこの設定値に達したらプリンタへ OK 応答を返します。 <b>0 指定は条件を設定しないとなります</b>
OKNoticeCondiProgressSec	0	<b>プリンタへ OK 応答を返す条件</b> <b>[JOBINFO/ RIPSTART コマンドからの経過時間(秒)] :</b> コマンドからの経過時間この設定値(秒)に達したらプリンタへ OK 応答を返します。 <b>0 指定は条件を設定しないとなります</b>

PdfDeployListFileName	pdf_list.txt	<p><b>ホットフォルダ動作で連携情報として PDF ファイル名リストを使用する場合のファイル名</b>です。このファイルを使用した場合は品</p> <p>種名指定、PDF の RIP 順番やページ範囲が指定できます</p> <p>~~~ファイル内容（例）~~~~</p> <p>KIND_NAME=〇〇様向けハガキ(両面：4 面付)</p> <p>PDF_COUNT=2</p> <p>PDF_FILE="POST-CARD_4 面_01.pdf"</p> <p>PDF_FILE="POST-CARD_4 面_02.pdf",1,100</p> <p>~~~~</p> <p>※最後の 2 カラムは開始・終了ページ指定で任意指定です</p> <p>※ホットフォルダ連携では、このリストファイルが存在しない場合は PDF ファイル有無のみを検出する簡易動作になります</p>
ResponseTiming	RIPSTART	<p>プリンタへ応答を返すコマンド制御のタイミングです</p> <p>[ JOBINFO = ジョブ情報送信後 RIPSTART = RIP 開始送信後 ]</p>
SearchIntervalTimeSec	3	ホットフォルダの PDF ファイル格納監視周期です（単位：秒）
SearchOrderBy	Date	<p>検出した PDF ファイルを取り込む並び順を指定します</p> <p>[ Date = ファイル更新日順 Name = ファイル名順 ]</p>
SearchOrderType	Asc	<p>検出した PDF ファイルを取り込むソート順序を指定します</p> <p>[ Asc = 昇順 Desc = 降順 ]</p>
SearchWildCard	*.pdf	検索される PDF ファイルのワイルドカードを指定します
StoreRequestFileName	store.dat	プリンタ側で生成される要求ファイル名です。ホットフォルダへの PDF ファイルの格納済みを通知するファイルです
StoreResponseFileNameNG	NG.dat	PRIGS 側で生成される正常応答ファイル名です。ホットフォルダ処理で何らかのエラーが発生した場合に作成されるファイルです
StoreResponseFileNameOK	OK.dat	PRIGS 側で生成される異常応答ファイル名です。ホットフォルダ処理が正常に終了した場合に作成されるファイルです
WatchFolderName	C:¥TGI¥PRIGS¥HotFolder	ホットフォルダ監視対象のフォルダ名です
<p><b>FolderShare ※レンダラ装置は PRIGS が格納されているドライブルートを[ShareName]で共有設定しておきます</b></p>		
UserName	(未設定)	レンダラ装置の共有ファイル格納フォルダのユーザー名
Password	(未設定)	レンダラ装置の共有ファイル格納フォルダのユーザー名
ShareName	PRIGS_DRV	レンダラ装置の共有ファイル格納フォルダの共有名
DriveNameArray	R:,S:,T:,U:	<p>レンダラ装置単位の共有時の仮想ドライブ文字名</p> <p>※レンダラ装置数分をカンマで区切って列挙する</p>

ThreadPriority ※この設定を変更する場合はサポートセンターにお問合せください		
TD_InspectPixelDataSend	High	コントローラ装置：TD_InspectPixelDataSend 優先順位 <b>Low=低 1、LowNormal=低 2、Normal=普通(未登録の規定値)、NormalHigh=優先、High=最優先</b>
TD_PixelDataReceive	Normal	コントローラ装置：TD_PixelDataReceive 優先順位
TD_StatusReceive	Normal	コントローラ装置：TD_StatusReceive 優先順位
TD_AdminReportReader	Normal	コントローラ装置：TD_AdminReportReader 優先順位
TD_Renderer	Normal	コントローラ装置：TD_Renderer(CTRL/内部 RIP)優先順位
TD_Renderer_0	Normal	コントローラ装置：TD_Renderer(CTRL/外部 RIP)優先順位
TD_Renderer_1~4	Normal	レンダリング装置：TD_Renderer(REND1~4/RIP)優先順位
TD_PixelDataSend	Normal	レンダリング装置：TD_PixelDataSend 優先順位
TD_StatusSend	Normal	レンダリング装置：TD_StatusSend 優先順位
TD_AdminReportSend	Normal	レンダリング装置：TD_AdminReportSend 優先順位
RendererRipBoundPage	0	RIP 動作時の分割グループ数、1/2/4/8 で指定、0 は分割なし
RendererRipTimeDisp	false	RIP 測定時間の画面表示 (true : する false : しない)

### 4. ホットフォルダ連携仕様

